

歩行者の道路横断行動、および文化が社会的情報の利用に与える影響*

スザンナ ザマタロウ
国際道路連盟（IRF）事務局長、ジュネーブ

多くの人にとって、道路を歩くことは毎日の行動のひとつです。人々が車にはねられずに道路を横断している回数を考えれば歩行は安全な行動だと考えられますが、状況、環境、（歩行者とドライバーの双方の）道路利用時の行動によっては、歩行がハイリスクな行動になる可能性があります。大都市居住人口の増加にともない、歩行者の行動は重要な研究分野になってきており、歩行者の安全はインフラ改善プロジェクトの優先事項と考えられています。

歩行者が横断しようとするのが速くなるほど、縁石から道路に踏み出す前に歩行者が情報を得る時間は短くなり、判断のリスクは大きくなります。また、この判断は、社会的/非社会的なさまざまな要因による影響を受ける可能性があります。社会的情報の利用やルール違反の確率と歩行者が属する文化や国との間には大きな相関性があり、法令遵守と社会規範の原則は各国で異なります。以前の調査で、違法な横断の件数は、歩行者の居住国と文化により大きく異なることが分かっています。私たちの生活や行動の仕方は私たちの文化による影響を受けますので、文化が道路の横断の仕方に与える影響も、性別や年齢と同じぐらいに大きい可能性があります。道路横断時のルール違反の発生率に影響している要因は何であるのか明らかにしようと、これまでに多くの調査が試みられましたが、これらの変化要因のさまざまな状況に直面したときの歩行者の意思決定プロセス、つまり歩行者が受け取った情報をどのように認識し解釈しているか、ということに注目した調査はほとんどありません。

このプレゼンテーションでは、社会規範の異なる2つの国の都市で歩行者が道路横断時に社会的情報をどのように利用しているかを評価するために行った調査の結果をご紹介します。この結果から明らかになったのは、道路の横断という行動は、私たちの住んでいる国だけでなく、その他にも、環境的、個人的、社会的要因など、さまざまな要因の影響を受けているということです。今回得られた結果により、以前の調査を確証できただけでなく、歩行者の安全に適用可能な新しい視点が得られました。

道路設計や都市計画を改善することは、交通事故による障害の危険を世界的に低下させるのに役立つ可能性があります。また、人間の行動についての理解を深め、性別、年齢、文化の異なる個人の間で基本的行動に違いが生ずるメカニズムを特定することにより、事故件数の低減を実現し、事故防止と安全教育に役立つ適切な根拠が得られる可能性があります。

*レファレンス

Marie Pelé, Caroline Bellut, Elise Debergue, Charlotte Gauvin, Anne Jeanneret, et al..
Cultural influence of social information use in pedestrian road-crossing behaviours. Royal Society Open Science, The Royal Society, 2017, 4, pp.160739. ff10.1098/rsos.160739ff.
ffhal-01487812f